

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4079800209 | | |
| 法人名 | 有限会社 のぞみの里 | | |
| 事業所名 | グループホームうげん荘 | | |
| 所在地 | 〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城3719番地3 0947-22-6555 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年2月10日 | 評価結果確定日 | 平成24年03月19日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>山の高台に位置し、木々が茂り静かでありホームの周りの環境も良い。</p> <p>利用者の出来ること出来ないことを職員全員が把握し、個人個人の「自立支援」に邁進している。声かけには工夫を凝らし、利用者が活気付く取り組みに努めている</p> <p>職員は研修会などにも積極的に参加し、常に新しい介護を取り入れる姿勢がある。</p> <p>月一回の外出では利用者全員が参加し、毎回楽しみにしている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>ホーム隣接の雑木林では、鶯の初泣きが始まり、土手の枯れ草の中から土筆が顔を出し、春の息吹を感じながら、今日も、元気な利用者職員は、日課の坂道を登る散歩が始まっている。「笑顔、愛情、尊重」を理念の柱とし、利用者一人ひとりの残存能力に合わせた、自立支援に向けた取り組みは、紙オムツから布パンツに改善する等、利用者の自信回復と、職員の達成感に繋がり、家族の喜びは、大きいものがある。利用者の健康は、協力医療機関による定期的な住診や、かかりつけ医の受診支援と連携し、24時間、医療連携体制が確立されている。また、利用者職員は、地域の祭りや、コスモスフェスタ等の行事に参加し、ホームのクリスマス会には家族や地域の方が参加して、楽しく懇談し、親くなった住民から、野菜の差し入れ等があり、活発な交流が始まっている。</p> |
|---|

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年03月07日 | | |

| . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | |
|--|--|----|---|
| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごしている (参考項目:30,31) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じ た柔軟な支援により、安心して暮らして いる (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念「笑顔・愛情・尊重」を掲げ、職員が常に学びサービスの質の向上を目指し、利用者が人として尊重され、地域の中でらしく笑顔で生活が続けられるホームを目指している。 | 「笑顔・愛情・尊重」を理念の柱とし、毎日唱和し、職員間で共有して、利用者一人ひとりが笑顔の中で、人として尊重され、楽しく生活できるよう努力している。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 日課の散歩時には近所の方への挨拶を心がけ、地域の祭りや「コスモフェスタ」に参加し、地域ボランティアによる「健康体操」を月2回開催している。 | 地域の行事、祭り、コスモフェスタ等に参加し、ホームの一大イベントであるクリスマス会には家族や、地域の方が参加し、活発な交流が始まっている。また、ボランティアの定期的な訪問によるたんぼ体操、散歩時、買い物先での交流等、日常的な関わり、つきあいがある。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の中で、認知症の相談窓口として受け入れ体制はある。 希望があれば受け付ける用意は出来ている。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今後は「地域包括支援センター」の相談員をメンバーに入ってもらい、地域包括ケアへの実践や連携を強化していきたい。 | 家族代表、地域代表、社協会長、行政職員、ホーム代表、施設長等が参加し、行事報告、ホームの取り組み等を報告し、質問や情報交換が行なわれ、活発な意見交換の場となっている。また、次回から、地域包括支援センター職員の参加も決まっている。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に町役場の介護保険課職員に参加してもらい情報共有に力を入れていきたい。 | 運営推進会議に、行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイス等頂いている。また、行政担当窓口へ出向き、情報提供や相談等、連携が図られている。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内ではいかなる場合でも身体拘束は禁止とし、職員にも周知している。 日中の玄関施錠はしていない。 又、身体拘束禁止の方針を廊下に掲示している。 | 身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員全員で勉強会を行い、身体拘束により利用者及び影響を理解し、拘束をしないケアの実践に努めている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 昨年6月に田川・桂川地域包括センターの社会福祉士による勉強会を開き、多数の職員が参加し啓発に務めている。 また職員も一丸となって虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 上記と同じ時に基礎知識は学習している。そして職員個々の自己学習にも期待している。疑問・質問などの相談にも応じている。 | 現在、制度の利用者はいないが、職員は、研修会で制度を学び、理解している。利用者や家族がいつでも制度を活用できるよう、支援する体制を整えている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には家族や利用者に必要な説明の上契約の締結をしている。後日の質問なども受け付けている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族からの意見は、電話及び訪問時に近況報告と共に汲み取っている。玄関に「意見箱」を設置しているが、利用は今のところ無い。 | ホーム便りを欠かさず定期的に発行し、行事等、利用者の暮らしぶりや職員の紹介を行なっている。また、家族の面会が多く、面会時や家族会の中で、話しをする場面を作り要望等を聴き取っている。遠方でなかなか来訪が難しい家族には、電話で近況報告をし、要望も聴いている。 | |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 昼食後に「ミニ・ミーティング」を毎日開催し、利用者の状態報告、提案や改善を毎日話し合っている。 | 会議は、毎日昼食後にミニ・ミーティングを開催し、気づき、意見、提案等を出し合い、的確に、早急に、運営やサービスに出来るだけ反映させる努力をしている。また、月1回勉強会を開き、知識を高め、職員の介護力アップに繋げている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者による評価を行なっている。職員の希望休は出来るだけ希望に添うようにしている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集、採用は性別・年齢を理由による制限は無い。採用は人間性や福祉に対する思い・向上心を重視して行なっている。 | 職員の採用は、人柄、高齢者を想う気持ちを優先し、性別や年齢の制限はしていない。また、職員の特長や、やる気を活かした適材適所の配置で、生き生きと働ける環境を作っている。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 各種研修機関を受講し、参加者がミーティングを通じて他の職員への情報共有に努めている。 | 会議の中で、人権に関する勉強会を行なうと共に、ホームの理念や運営方針「利用者に対してその権利を尊重し、礼節と尊敬を持って接するように努める」事を確認し、利用者の人権を尊重する取り組みを実践している。 | |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 福岡県社会福祉協議会開催の介護講座に希望を募り参加させている。職員全員に「実践者研修」を受講させる計画があり、実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福智町内はもとより、糸田町・添田町のグループホームと連携して、月に一度協議会を開催。 外部からの勉強会や意見交換による交流を深めている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員全員がアセスメントを取り、いろいろな角度からのアセスメントシートの作成に励んでいる。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学時に現時点の問題点を話してもらい、今後の援助方法を共に考え初期の信頼関係構築に努めている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本契約時に本人と家族の意向を重視し、本人にとって今必要な援助方法の提案を促し行なっている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存能力を把握し、必要以上の援助はしない事に職員一同徹している。 名前の呼び方も本人の了解の上、「下の名前」や「ちゃん」付で呼び合う関係になっている。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | とある家族は、「父親の洗濯物は自分で洗う」と申し出てくれました。 また月に一度「支援経過」を郵送にて家族に届けている。 | | |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ホームの買い物に同行し、馴染みのスーパーでの買い物を楽しむ。 その時に、近隣の友人と遭遇し会話が弾む場面があり、微笑ましい。 | 利用者の馴染みのお店で買い物を楽しんだり、買い物レクリエーションで、行った先のお店で友人に会って挨拶したりしている。また、友人、知人、遠い親戚の方も面会に来られており、訪ねやすい雰囲気作りを心がけ、これまでの関係継続の支援をしている。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フリースペースでもあるリビングでレクを行なっている。 カラオケやゲームを通じて利用者同士の助け合いが見られている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も、認知症に関する相談を受け付けている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話の中から悩みや困り事に関する「気づき」を一つでも多く汲み取られる能力アップを心掛けている。 | 職員は、利用者と常に寄り添い、会話や仕草、表情から、利用者の思いや意向を感じ取ることが出来るよう感性を磨き、出来るだけその希望を叶える努力をしている。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活や関わった社会資源と連携して必要な情報を収集し、今後の援助に生かしている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の習慣を把握し、変化が発見すれば必要な処置を行うようにしている。 | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメントやモニタリングは職員が作るように指示している。利用者の変化に早く気づくように、毎日のミーティングや申し送りに職員全員の意見を聞いている。 ただ、サービス担当者会議に家族の参加は少ない。 | アセスメントを職員が作る事で、意識を高め、また、利用者の言葉をそのまま記録する事で、利用者の状態をより具体的に共有する事が出来ている。介護計画は、本人、家族の希望を聴き、職員の気づき、関係者の意見を反映させて3ヶ月毎に作成している。 | |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 朝夕の申し送りにおいて、利用者の変化を留意、記録し報告している。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | そのようなニーズが発生すれば、柔軟な姿勢で対応していく様にはしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家族や親しい友人の訪問、家族などと外出に勤しんでいる。 定期通院に職員が同行し、病状把握に努めている。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期通院では近況を報告し、病気に関する相談や対応方法を教えてもらっている。 | 利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。その際、病院受診用の申し込みの書類を完備し、情報の共有に努めている。また、24時間対応可能な協力医の存在は大きく、安心して適切な医療を受けられる関係を築いている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 平成24年2月より「医療連携体型」を始めた。 今後の往診で利用者の情報交換を構築したい。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 関係の医療ソーシャルワーカーとの連絡は取れている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化に関しては、家族にホームで出来る事を説明している。終末期に関しては今まで対応したことがない。 | 重度化の指針を作成し、入居時にホームで出来る事、出来ない事を家族に説明し、理解してもらっている。また、医療連携体制をとり、利用者の重度化に向けた支援体制を確立させている。 | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習を受けた職員が3人、事務所に蘇生用マウスピースを用意している。 受講職員からは不定期だが救急救命の心得やアドバイスを教えてもらっている | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に消防署の協力のもとに避難訓練を実施している。夜間避難訓練も毎年開催している。 | 消防署の協力の下、昼夜間を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に備えて非常食、飲料水、毛布等の準備もある。 | 火災だけでなく、風水害を想定した非常災害訓練の実施と、年2回の訓練の実施、地域住民との協力体制の確立が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入室前のノックはもとより、プライバシーを損ねる行為は禁止としている。 個人情報の取り扱いについては職員と誓約書を交わしている。 | 職員は、利用者目線での優しい声掛けや対応を行い、利用者の人格を尊重したケアに取り組んでいる。職員間で、注意し合える関係作りに取り組み、自分では気づかない事に気づき合う事を大事にし、利用者の話をする時にはイニシャルトークを心がけている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来ること出来ないことを十分に把握し、入居者の自己決定を優先している。 個人個人の希望は日常会話の中から汲み取るようにしている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者優先の原則を職員一同周知させている。 要望希望は出来る限り対応する環境としている。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出来ること出来ないことを十分に把握し、入居者の自己決定を優先している。 希望があれば馴染みの美容院に連れても行っている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の下準備・配膳・下膳を利用者と共に行い、利用者と同じテーブルを囲んで食事をし、会話や笑談がある環境である。 | 利用者、職員と一緒に下ごしらえや配膳、下膳等を行い、同じテーブルで同じ物を食べ、笑い合いながらの楽しい食事風景である。また、毎日毎食の食事を写真に残し、家族にも見て頂き好評である。この日は家族から差し入れの八朔を皆で楽しそうに剥かれていた。 | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食の食事摂取量を記録している。 一日に必要な水分摂取量を把握し、提供に努めている。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアにおいては、毎週金曜日に訪問する歯科医師の指示を仰ぎ、毎食後の口腔ケアに努めている。 週1回ボリデントによる洗浄も行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者個人の排泄・排尿パターンを職員が把握し記録を取り、声掛けトイレ誘導をしている。 | 管理者と職員は、トイレでの排泄の支援に取り組み、現在、利用者全員がトイレでの排泄を行っている。また、日中は半数以上が布パンツよりハパンツで過ごし、紙オムツから布パンツに改善される等、利用者の自信回復に繋がっている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘になりにくい食事提供の方法を周知し、食物繊維や水分補給の大切さを勉強会で話している。 その事を実践していく様に職員も心掛けている。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの希望は尊重するが、習慣性を保つためには、職員都合の場面がある。 習慣性とは入浴したのに「していない」と主張する場面が出てくること、この設問は認知症状を理解していないと捉える。 | 入浴は週3回であるが、利用者の状態や気分で柔軟に対応している。入浴を拒まれる方に対しては、無理強いせず職員が代わったりして気長に話しながら、気持ちよく入って頂けるよう支援している。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 基本自由行動である。本人に希望を聞いて安楽な休息方法を決める。 状況に応じて加湿器や電気毛布を使用する。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 病院受診記録簿に個々の受診記録を残し、処方箋による薬の名前や説明文を職員に分かりやすいように通院記録に記している。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 朝礼後利用者に掃除の分担を決め、毎日の日課としている。 その終了後はお茶の時間とし、メニューの中から自分で選んだ飲料を飲んでもらっている。 | | |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に沿って散歩に出かけたり、家族支援による外出にも力を入れている。 買物希望の場合も、臨機応変に対応している。 | 日課である散歩、買い物、外食、ドライブ、季節毎の花見等、利用者の希望を聞きながら、出来るだけ要望に応える形で外出の支援をしている。この日は、利用者職員が連れ立って遠賀川の河川敷の菜の花を見に歩いて出かける姿が見られた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理が可能な利用者には、買物時に自分で好きなものを購入してもらっている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人からの電話は本人に回している。電話をかけたい場合も同じ、手紙も本人に渡しているし、家族に年賀状を書いて投函している。 | | |
| 54 | 2 2 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 快適な生活が過ごせるように、職員一同室内の温度管理に留意している。 加湿器や消毒液等でインフルエンザの予防も心掛けている。 季節感が分かるレイアウトに力を入れている。 | 木をふんだんに使った温かみのあるリビングは天井が高く、開放的である。床暖房の完備と加湿器を使用し、温度、湿度管理は万全である。 ソファの位置を変えたり、炬燵を置いたり、畳を敷いたり、気分転換を兼ねて、利用者が居心地良く過ごせる共用空間作りに取り組んでいる。ホームの中は利用者が愛情こめて育てたヒヤシンスの花が満開であった。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングに畳を敷いて気のあった利用者同士が過ごせる空間を提供している。 洗濯物たたみや談話をする風景が見られる。 | | |
| 56 | 2 3 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた個人の持ち物を持って来てもらい、以前過ごしていた環境に近い空間提供を心掛けている。 自室のレイアウトは本人に任せている。 | 居室は、クローゼットが広く、明るく、家族と相談しながら、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらっている。仏壇、タンス、茶碗等、利用者の大切にしていた物を持って来てもらい、利用者にとって居心地の良い居室となっている。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自室入口には、本人が自分の部屋であることが分かる工夫を施している。 トイレや洗面所・風呂場が分かるように矢印等で誘導している。 | | |